

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473601100
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム アカシヤの家
訪問調査日	平成 20 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1473601100
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所
事業所名	グループホーム アカシヤの家
所在地	神奈川県横浜市泉区岡津2901-1 (電話) 045-810-0228

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(平成20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	29 人	常勤 2 人, 非常勤 27 人, 常勤換算	12.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(245,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,067 円

(4) 利用者の概要(平成20年7月7日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡津クリニック、湘陽かしわ台病院、湘南台中央デンタルクリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念としているその人の生活リズムを大事に、家庭に近い環境で本人の自発力を大切に、また、地域交流の場を多くし、その人らしく、自立心を持って、楽しく生活するための支援を心がけている。
地域との交流を大切にしており、運営推進会議や自治会などでの関わりを通して、より良い関係を築くよう努めている。
ハード面では、緑豊かな環境を活かし、リビング、居室の窓、ベランダいずれからも緑が見える。リビングに続く中庭も緑に囲まれ、日向ぼっこ、ベンチでの団欒、バーベキュー、野菜の栽培など広く活用して、利用者の生活に取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価での改善課題となった事項はない。日頃のサービスの改善では、自治会や町内会との連携が取れるようになり、災害時の協力依頼をしたり、地域の方が事業所に来やすいよう雰囲気づくりに努め、地域とのつながりを大切にしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたっては、各ユニットごとに、職員に評価の意義を説明して、各自が自己評価票を作成した。その後、管理者がまとめた自己評価票を再度職員間で確認して、作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催し、事業所の現況や問題点などを開示し、委員から評価、要望、助言等を受け、サービスの質の向上につなげるよう努めている。平成20年6月の運営推進会議で災害対策について話し合い、委員の協力で、避難場所、飲料水の確保、自治会の救出対象となるなど、地域と連携体制が取れるようになっている。運営推進会議の活動を通して、近隣の高齢者の方が気軽に立ち寄れる場所、寄り合い所となることを目指している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3ヶ月ごとに家族会が開催され、家族の面会時や家族会などに、要望や提案等を自由に発言してもらうよう心がけている。家族から寄せられた要望や意見等は、朝礼等で職員に周知し、対応している。使用されたことはまだないが、玄関に「言いたい放題ボックス」の設置や「苦情受付書」も用意している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、ごみ当番、町内清掃、どんと焼き、盆踊りなどに参加しており、また、事業所の納涼祭に地域の方が参加している。まだ加入者はいないが、老人会へのグループホーム利用者の個人参加も可能である。地域からのボランティアを受け入れるなど、地域とのつながりを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご利用者の人格を尊重し、最も家庭に近い介護を志し、明るく元気で快適な生活を送れる様に、適正なサービスを提供する事に努めます」を理念としている。その人の生活のリズムを大切に、家庭に近い環境で自発力を大事にし、地域交流の場を多くし、自立心を持って、楽しく生活するための支援を心がけている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関入口に掲示し、カンファレンスや介護計画作成時、朝礼の際に、理念に沿った活動が出来るよう職員間で話し合っている。外出先の希望、レクリエーションの参加、入浴など日々の生活の中で、個人のペースを尊重している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ごみ当番、町内清掃、どんと焼き、盆踊りなどに参加し、また、事業所の納涼祭に地域の方が10名程参加している。町内会と連携が取れるようになり、災害時の避難場所と飲料水の確保ができるようになった。まだ加入者はいないが、老人会へのグループホーム利用者の個人参加も可能である。地域からのボランティアを受け入れるなど、地域とのつながりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたっては、各ユニットごとに職員に評価の意義を説明し、各自自己評価票を作成し、その後、管理者がまとめたものを再度職員間で確認し、作成した。日頃のサービスの改善では、自治会や町内会との連携が取れるようになり、災害時の協力依頼をしたり、地域の方が事業所に来やすいよう雰囲気づくりに努め、地域とのつながりを大切にしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催し、事業所の状況や問題点などを開示して、委員から評価、要望、助言を受け、サービスの質の向上につなげるよう努めている。平成20年6月の運営推進会議で災害対策について話し合い、委員の協力で、避難場所、飲料水の確保、自治会の救出対象となるなど、地域と連携体制が取れるようになっている。運営推進会議の活動を通して、近所の高齢者の方が気軽に立ち寄れる、寄り合い所となることを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に加入している。区の担当者とは、生活保護受給者など、区から依頼の利用者への入居支援時に連絡を取ったり、利用者の退居の際の退居先について、相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者の生活状況、金銭管理の報告を郵送にて行っている。突発的事項は速やかに電話連絡をしている。職員の異動については3ヶ月ごと開催される家族会または面会時に報告している。事業所内に行事や日々の様子の写真を貼り、家族は面会時等に利用者の事業所での生活を伺う事ができるようになっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会などの際に要望、提案等を自由に発言してもらおう心がけている。家族から寄せられた要望、意見等は、朝礼等で職員に周知し、対応している。使用されたことはまだないが、玄関に「言いたい放題ボックス」の設置や「苦情受付書」も用意している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場環境づくりに努め、職員同士で何でも言い合える関係を目指している。職員の異動がある場合は、新しい職員が利用者と信頼関係が出来るまで、馴染みの職員が間に入り、混乱が起きないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症ケア」、「ケアプラン作成」、「防災」など、その他様々な研修に常勤、非常勤を問わずに参加している。また、同一法人のグループホームの交換研修も取り入れている。研修内容は朝礼の際などに報告し、職員間で共有している。資格取得希望者には、勤務シフトに配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会、市のグループホーム連絡会に加入し、研修への参加、他の事業所との交換研修に参加している。今年度は3日間で1日ずつ、非常勤職員を含めて3名の職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族にグループホームを見学してもらい、見学が無理な場合は家庭訪問している。暮らし方の希望などを利用開始前に職員間で共有し、入居後は家族と連絡を密にとり本人への声かけをこまめに行い、様子を確認している。家族から本人へグループホームの利用について説明してもらい、納得した上で利用してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理時に味見をしてもらったり、文章の得意な利用者に手紙の書き方を職員が教えてもらっている。また、裁縫の得意な利用者が繕い物をしているのを、繕い物をした経験が少ない若い職員は感心している。食事の後片付けや掃除など、自分で出来ることは職員や他の利用者と協力することで、自信や自立心を持ち、楽しく生活出来るよう支援をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、介護計画の見直し時などに、本人、家族から生活歴や暮らし方の希望を聞き、記録している。利用者が日々の会話の中で見せる行動や表情、仕草、会話等から、本人の意思を確認し、気づいたことは「日々の気づきメモ」に記録し、月に1度に行うケースカンファレンスなどで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、介護計画の見直し時などに、本人、家族から聞いた生活歴や暮らし方の希望や、ケースカンファレンスで話し合った情報を基に、計画作成担当者が介護計画を作成し、その後に職員間で確認している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、3ヶ月から6ヶ月で見直し、状況に変化がある場合は随時見直しを行っている。本人、家族の思いや課題を記録し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関である系列法人の病院から認知症の専門医が月2回往診をしており、その際に、意見やアドバイスを受けている。利用者の症状によっては、利用者のことを把握している法人の看護師が病院での受診に同行することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、要望を聞いている。本人の希望で在宅時からのかかりつけ医に、家族の送迎で受診している利用者もいる。協力医療機関から、認知症の専門医が月に2回、内科医が2週間に1回、協力歯科医療機関の歯科医が月に1回往診をしている。協力医療機関で受診する際には、職員が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは、グループホームとして、介護の範囲で出来る限りのことは行うが、医療を伴うターミナルケアまでは行わないという指針を説明し、理解を求めている。その上で、家族から意向を伺い、主治医の意見を参考にした上で、全職員で何が出来、何が最も良いサービスなのかを検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等の書類は、ユニットごとに書棚に保管管理している。共用空間であるリビングの壁に掛けている予定表には、個人名は使わずイニシャルで表記している。また、一つのユニットにおいては、利用者が落ち着け、気持ちを出しやすいつ呼びかけと言葉かけ、自立心を損なわないように最小限度の介助としていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、基本的に利用者個々のペースを尊重している。食事は全員でとるが、食事にかかる時間に個人差があるので、職員は利用者1人ひとりを見守っている。体操、レクリエーションも声かけはするが無理強いはいはしないようにしている。訪問調査日にも、庭で職員と話しをする方、自室で休む方それぞれに過ごしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に盛り付け、配膳、片付けを行い、利用者と職員と一緒に団欒しながら食事をとっている。馴染みの食器の利用や行事食、誕生日には希望のメニューを用意している。訪問調査日に、来所した家族と利用者達の会話で、冷やし中華が食べたいと盛り上がり、職員がそうめんとある材料で臨機応変に対応し、食べてもらっていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に最低週2回の入浴を支援している。自分で入浴可能な利用者は毎日でも入浴可能で、ほぼ毎日入浴している利用者もいる。湯温については、基本は38度～42度であるが、個々の希望により対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、家族から聞いた生活歴や暮らし方の希望、日々の生活の中で把握した本人の意思を参考に、カンファレンス等で個々に合った楽しみごとを検討し、詩吟、歌、畑や園芸、掃除、洗濯など個々にあった楽しみごとや役割を設定している。花の好きな方は自室横のベランダでサボテンを育てている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の会話の中で要望を把握し、ドライブや、月に1度、利用者の希望を聞いて各ユニットごとに全員で外出、外出をしている。食の進まない利用者への配慮で、ラーメンを食べに外出するなどの工夫もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけておらず、一日中、居室から共用空間への移動は自由である。玄関は夜間を除き鍵をかけていない。外出の気配のある利用者には、本人が出かける時にすぐに制止するのではなく、職員が背後から見守り、声かけをすることで、鍵をかけない工夫をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成20年8月に利用者も参加して防災訓練を実施した。建物の中で一番安全な場所の情報を掲示し、避難場所の特定を行っている。運営推進委員会で、災害対策について話し合い、避難場所、飲料水の確保、自治会の救出対象となるなど、地域との連携体制を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事、水分摂取量の記録をとっている。献立は管理栄養士が作成したものを使用している。利用者の状態によりトミ食、刻み食を提供している。野菜が嫌いな方にはさりげなく野菜を薦め食材の説明をしている。食事介助も本人の残存能力を考えて行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は豊かな自然の中にあり、リビング、居室の窓、ベランダの全てから緑が見える。玄関にはプランターの花、リビングには季節の花や利用者が作成した季節の絵や張り絵などが飾られ、明るく家庭的な雰囲気となっている。芝生のある広い中庭には、テーブルと椅子があり、天気の良い日には日向ぼっこをしたり、バーベキューなどにも利用している。庭では野菜の栽培も行っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物は出来るだけ持ち込んでもらい、各個人の居室は本人が使い慣れた物で、構成されている。ベッド、寝具はもとより、整理タンス、姿見など置かれ、自室のようになっており、本の好きな利用者の自室は沢山の本が置かれるなど、様々になっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・アカシヤの家
(ユニット名)	ひなげし
所在地 (県・市町村名)	横浜市泉区岡津2091-1
記入者名 (管理者)	小林 幸子
記入日	平成 20年 7月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭に近い介護を志し、主人公はご入居者様で、御自信が出来る事をして頂くことを大事にサービスをしています。朝礼時などに地域交流について、職員間で話し合っています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示しています。朝礼、カンファレンス時など理念に沿った活動が出来るよう話し合っています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご利用者が最も家庭に近い状態で生活が送れる様に、家族会、運営推進委員会を開き話し合いをもっています。毎月1回お手紙によりご利用者様のご様子をお知らせしております。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者の散歩、庭での外気浴、隣近所の方によるボランティアなど交流を図っています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミ当番、町内清掃、どんと焼きなどの催し物に参加しています。	個人で老人会に加入し行事に参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ご近所の高齢の方が気軽にホームに遊びに、こられるような雰囲気づくりにつとめています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の定義を職員が理解しサービスを見直す機会として捉え朝礼やカンファレンスに活かす努力をしています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にホームの活動状況、抱えている問題点など開示し委員のかたから、ご意見をいただきながらサービスの向上につながる努力をしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームの状況報告、研修への参加を通じ、サービスの質の向上に向けた相談をしています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>公的な機関の主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時に報告をしサービスの向上の糧としています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、朝礼、カンファレンスなどにより話し合い、公的機関の研修に参加し得た情報や他所での例を検討することにより虐待防止の徹底に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様とご家族の方の思いを聞きながら、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、納得されたとき契約に至っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で入居者様の声、様子にきをつけて、ご入居者が落ち着いた生活が出来るよう、時にはご家族の協力を仰いでいます。玄関に何でも言える「言いたい放題ボックス」を設けて、ご意見、不満、苦情を運営に反映させています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回ご入居者様の生活の様子、金銭管理の報告をしています。体調不良や生活の変化が見られるときには、ご家族に連絡をしています。職員の異動などは家族会、面会時などでお知らせしています</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族面会時、家族会などの機会に要望、提案など自由に発言していただくように心がけ、サービスの改善につとめています。玄関にある「言いたい放題ボックス」から御家族よりの、ご意見、不満、苦情を自由に発信していただくよう心がけ、運営に反映させています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼、カフェレンスで自由に発信できる雰囲気作りを心掛けて意見交換をしています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフが足りず入居者様に迷惑をかけないように全員で協力し職員の確保につとめています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があった場合、信頼を得ているスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きないように配慮しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎日朝礼を行い、理念にあったケアについての話し合いを行っています。研修案内を掲示し、研修参加を勧め働きながらトレーニングしていくことを進めています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し研修会に参加しています。又同系列のグループホームの研修を行い交換研修を定期的に行い、サービスの質の向上に努めています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>朝礼、カフェランス時に話し合いしながら、コミュニケーションを図り、不安を抱えないよう話を聞く時間を設けています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフを信頼し、困ったときなど話し合い、アドバイスをし安心して働けるように努めています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の時充分に時間を取り入居者様の思いをうけとめ信頼関係が出来るよう努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の面接時、充分時間を取り家族の思いを受け止め、ホームで出来るサービスの話し合いをしています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、困っている事、悩んでいること、どうしたいかを聞き、地域の社会資源をご家族に情報提供いたします。		玄関のご家族からの質問箱「言いたい放題ボックス」を設置し、用紙に記入して頂き投函、その後質問を回収し回答させていただきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	要望をお聞きし、スタッフ間での情報共有、カンファレンスを行い、きめ細かく、ケアができるよう常に心がけ、適切なサービス提供が出来るよう努めています。		2週間に1度カンファレンスを開き、情報共有、交換を行うようつとめています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としての経験、知識、技術を尊重し、新たな生活を支援し、共に学びながら楽しく明るい日々を送っていただけるよう努めています。		昔の話から今の生活につながるよう日々の会話を大切に学びながら、支えあう関係づくりを行っています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご家族様より昔からの習慣や生活のリズムをうかがい、その習慣や生活リズムを取り入れた新たなケアを提案しサービスを提供しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を定期的に行き、認知症の理解を深めていただき、入居者様の様子を面会になかなかこられない方に手紙を書き面会に来ていただけるよう働きかけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会を定期的に行き近況をお知らせする手紙をお届けして、馴染みの人と場所との関係が途切れるような急激な環境変化を避け、新たな入居者様同士の接近による交流を通じて、新たな面を引き出すように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご自分の殻にこもらず、他の入居者様への関心を引き出すような場を積極的に設け、入居者様同士のトラブルや談笑中は、職員は見守りをし介入しなければいけないときは職員対応とし、入居者様がくつろげるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむなく退居となってしまった場合でも、入居者様、ご家族のニーズにかなった行き先や、サービスの提供を行い、その後の経緯も把握するよう努めています。		退居後もご本人がその方らしく生活出来るように又必要に応じサービス情報の提供を行っています。退居された入居者様とその御家族な御厚意により、ささやかなホーム菜園での季節の収穫が現入居者様にもたらされております。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のニーズ、意思を確認し、尊重できるよう努め、カンファレンスを細かく行い意向の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接や面会時にご家族から、今までの生活情報を得ています。日常の暮らしからも、今までの生活情報の経過などの把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェックのみだけでなく、日常の時系列の行動記録、食事の状態(全体量、水分量)を記録し、比較することにより心身の変化を総合的に把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の朝礼にて、入居者様の状態把握を細かく行い、変化や急変時にはカンファレンスを行い、ケアの見直しを実行しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月ごとの更新、又状態の変化にあわせカンファレンスを開きケアプランの作成、見直しをおこなっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個別介護記録と申し送り事項を日々の朝礼での情報共有とし共有化を行い実践に活かし、その結果を介護計画に結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の病院、クリニックから月2回専門医の先生に往診をしていただき、意見やアドバイスを受けています。系列病院への外来受診、入院等。		
専門医				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練への参加、地域で行われているイベントに参加したり、ボランティアの方々に来所していただき、民謡、詩吟童謡などを楽しんでいます。		御家族のご協力を得て、毎週1回、詩吟教室を開いています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ訪問歯科診療を受けています。口腔機能の維持及び低下予防を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	3ヶ月に1度運営推進委員会を開催し、センター職員や市役所の方に参加を呼びかけ参加していただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	肉体的、精神的な受診を定期的に設定し、今までのかかりつけ医の流れを受け継いで適切な医療を受けていただける体制を備えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で本人を傷つけないような言葉掛け、介護を心掛けています。記録の際トラブル等を記すときは、相手方の固有名詞は使用せず、情報の共有をしています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が何をしたいのか、様子観察、威光の確認などし、その意向に沿うように支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にふさわしい生活が送られるよう、個々のペースやスタイルを尊重しています。ホームのモットーは、常に入居者様が主人公です。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容を2ヶ月に1度利用しています。要望があれば馴染みの美容院へ行けるよう支援しています。入居者様の身だしなみや整容はご自身の選択によって日々決定しています。同じ服装が続いたらスタッフが調整しております。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に配膳、盛り付け、後片付けをしたり、入居者様とスタッフが同じテーブルについて、くつろいだ雰囲気の中で団欒できるように努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様の健康とご家族様に配慮し、ホーム内での喫煙はしていません。入居者様がそれぞれ抱えている問題に鑑み医師に許された範囲内での嗜好品を提供しています。	○ 誕生会では、入居者様の希望に合った料理を出すよう心がけています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗時本人が傷つかない、さりげない配慮をし、排泄パターンを把握、排泄記録をつけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時は自由に入浴していただき、負担にならない程度の時間、入浴していただいています。シャワー浴はいつでも可能です。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の疲れの度合いを考えて、外出レクリエーションを行っている。安眠できない入居者様には、医師と相談し薬を処方しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生き生きとした生活を送れる様、一人一人の生活観を参考にし、様々な趣味活動の場を提供し、それぞれのそれぞれの入居者様に合った仕事を手伝っていただいております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、ご家族より、お小遣いをお預かりして必要時にはスタッフが立会い買い物やお茶代の支払をサポートしております。。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人個人の希望にあわせて、外出しています。歩行困難な方は、車椅子や車で外出し負担のかからないように努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の好きな方には、個別に買い物、ドライブ、外食などの支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が本人からあれば自由にかけていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誕生日会の日程などご家族に連絡し、参加していただき一緒に楽しんでいただいています。又居室、リビングにて一緒にお茶を飲み過ごしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が勉強と共有化を図っており入居者の安全を確保し、拘束する行為を行わないようにしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人の意思を尊重し、利用者が出掛ける時は、あとから付いてゆき見守り、時には声かけをしています。玄関に、鍵はかけないようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の日々の動きを把握し連携プレイで見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人や、ご家族の承諾を得た上で、刃物類は事務所で保管しています。その他の物については、利用者の状況に応じて適当安全を確保しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の身体状況を把握し、お粥、刻みなどの調理法を実施している。足の運びの悪い方には、シルバーカーを使用いただいています。薬には、名前、日付、朝、昼、夕の記載をして誤薬のない様に対処しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生講習の受講、入居者様急変時マニュアルをリビングの目立つところに掲示。救急車対応は救急対応マニュアル(リビングの目立つところに掲示)により、状態観察と手順により、職員全体で対応出来るようにしています。	○	救急者対応時の状況を朝礼時に再度点検し、生じた問題点を次回への対応へと生かして行きます。(例:他入居者、近隣への配慮を含め)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	耐震強度を調べ建物の中で一番安全な場所情報の掲示をし、避難場所の特定を行う。自治界の避難救出対象としています。	○	防災ズキン、ヘルメット、非常食、飲料水の常備を継続しています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを面会時、家族会の機会に説明しています。又最低でも月1回の現状報告の短信を郵送して、入居者の日常及び当月の変化情報を共有する土台作りをしています。	○	家族との話し合い、現状説明等の記録を残し、朝礼で職員への報告及び説明を行い対応策の共有化を図っています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックばかりでなく、入居者様の水分摂取量をもチェックし職員の明るい声かけにより、一人一人の体調の変化や、異変の早期発見に努め、この情報の伝達、指令系統の確立を毎日の朝礼で行っています。	○	毎日のバイタルチェック表及び水分チェック表を記入して、全職員で体調変化の早期発見に努めています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に排尿、排便チェック表を一人一人記録し、便秘の予防と対応に取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解したうえで、声掛けのみの人、半介助、全介助の方と一人一人に合ったケアをしています。	○	ブラシのチェック、コップの清潔を保ち、口腔洗浄液なども使用する。又発声訓練を工夫して唾液と唾下機能の保持に努めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を使用し全員の摂取量、水分量の記録をとっている。上体に応じ、刻み食、お粥などを提供し、利用者のリクエストに応じたメニューも取り入れています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	次亜塩素酸ナトリウム液をうすめ、24時間、1年中を通し加湿器を使用して予防に努めています。嘔吐があった際は、スタッフが処理に係り、調理には入らないようにして、周りへの感染を防ぐように心掛けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は塩素系漂白剤を使用し1日1回消毒しています。食器類は食器乾燥機を使用しています。食材はすぐに使用する物以外は、冷凍庫に保存するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門の入り口に掲示板を立て、施設の様子や取り組みをお知らせし、近隣の方々に見ていただけるようにしています。玄関周りに花を植え季節に応じた飾りをし、季節感を感じて頂ける様にしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンから居間が見渡せる様になっています。居間には季節を感じていただけるような飾りつけや、スナップ写真を飾り、庭に咲いた花を生けたり又収穫した野菜を楽しんでいます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には畳のスペースもあり長いソファを置き一人で新聞を読んだり、テレビを楽しんだり出来るようしています。庭にはベンチもあり、お茶を飲んだり、散歩ができるようにしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、なるべく今まで使っていたものを持ち込まれ(ベッド、タンス、布団、写真)自宅であるという雰囲気の中で生活して頂けるように支援させて頂いております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日全居室の窓を開け風邪を通し(天気の良い日は)清掃を行い、冷房、除湿などで換気を行っています。冷房の苦手な方には、あたらぬ工夫をうしています。PM居室以外は窓を開け空気の入替えなどしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖を使用されている方は、週に1度先を交換しています。音の出る様にとの方にはそのように、目の不自由な方には自分の部屋やトイレの手すりが触って確保できるよう配慮しています。		建物内部は、一人一人の身体機能を活かして、安全かつ、出きるだけ自立した生活がおくれるように工夫しています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アカシヤに馴れ一人一人の性格が把握出来るようになったころ、洗濯物たたみ、食事のセット、片付け、掃除、お花の水取替えなどのお手伝いをさせていただいています。		自己の部屋を認識できるように、表札を目の高さに、ドアノブの撮ってに目印をつけてあげるなどしています。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭へ出て食事会をしたり、レクリエーション、季節の野菜づくり、収穫など季節の行事他のフロアの入居者さんやご家族との交流を図っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指します。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・アカシヤの家
(ユニット名)	つきみそう
所在地 (県・市町村名)	横浜市泉区岡津2091-1
記入者名 (管理者)	小林 幸子
記入日	平成 20年 7月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	朝礼時などに入居者様が地域の行事や催し物など地域交流の場を多く作ることで利用者とその人らしく暮らせるよう職員間で話し合っています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げ、カンファレンス、ケアプラン作成時などに職員間での理念の共有実践につとめています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者様が最も家庭に近い状態で快適な生活が送れるように、定期的に家族会を開きご家族、地域の方々に参加いただき話し合いをもっています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に加入したことにより、地域の方がホームに気軽に行き来する場面が多く見られ隣近所の肩との交流が自然になって来ています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入した事により町内会の行事に入居者様が、地域の一員として参加できるようになりました。	○ 町内会の大きな行事(盆踊り、運動会、どんと焼き)に参加する予定になっています。なた個々の対応で老人会に参加できるようになっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方、ご近所の高齢者の方が気楽にホームに遊びにこられるような雰囲気づくりに努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価及び外部評価を実施する定義を理解し、サービス提供を見直す機会として捉え、朝礼やカンファレンスに活かす努力をしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況やホームの抱えている問題などを開示することにより、地域の方々から様々な意見をいただき、意見を活用した上でサービス向上につなげる努力をしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内の状況報告、研修への参加などを通じてサービスの質の向上に向けた相談をしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公的な機関が主催する研修に参加し、研修内容を朝礼時に報告するようにしています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やカンファレンスなど、虐待防止についての話し合いを行う事により、虐待が見過ごされないように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族の方、それぞれの思い、考えをお聞きしながらホームで出来ること、出来ないことを説明しご理解いただけた場合契約していただいています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が安心し、落ち着いた生活が日々出来るように、入居者様の声を見逃さないようにする、又ご家族の協力を得るときもあります。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用者の生活状況、金銭管理の報告を行っています。体調など健康状態の変化がある時、速やかにご家族に連絡させていただいています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時、家族会などの機会に、要望、提案等自由に発言していただくように心がけ、サービスの改善に努めています。	○ 御家族様が面会に来られた時は、職員側から積極的にコミュニケーションをとるように心がけ、いろいろな意見を伺うようにしています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や、カンファレンス等で、意見交換をしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフが足りずに入居者様に迷惑を掛けないよう全員で強力し、職員の確保に努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等あった場合には、馴染みのあるスタッフが介入し、混乱や問題行動が起きない様十分な配慮を心掛けています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日朝礼を行い、理念やケアについての話し合いをおこなっています。又研修の案内を掲示し研修参加を勧めています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加をしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	朝礼やカンファレンス時に話し合いをしながらコミュニケーションを図り、不安を抱えることのないよう話を聞く時間を設けています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員を信頼し、悩み事や困ったときなど話し合いを行い、アドバイスすることで、安心して働ける環境作りをおこなっています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面接時、十分に時間を取り入居者様の思い、抱えている問題点を聞き出し、信頼関係が出来るように努めております。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面接時、充分時間を取り、家族の思いを受け止め、ホームで出切るサービスの話し合いを行っております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、困っている事、どうしたいのかを聞き出し、地域の社会資源の情報を提供しております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方に体験入居をしていただき、納得された上で入居していただくことも可能です。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の知識や経験を尊重し、入居者様の得意な分野を活かし、ホーム内での生活でご協力頂いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族が面会にきていただいた時、入居者様について話す機会をその都度設けてサービス提供のヒントに繋げております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会などを通じて、認知症に対する理解を深めていただき、御家族の面会が遠ざかっている時は、お手紙、電話で面会においていただくように働きかけております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様に対する急激な環境の変化を避け、新たな入居者様と相互の接近による交流を通じて新たな面を出していただけるようにしております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士で、会話の行き違いなどで起こる言い争いなどのトラブル時には、職員が介入しトラブルが大きくならないように、解決していくようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	諸般の事情により、やむなく退居に至ったときでも入居者様のニーズに合った行き先や、サービス提供を行っている、退居後もその人らしい生活が出来るよう必要に応じて、御家族に情報提供を行うなど連絡を取ることでその後の経緯を把握するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日々の生活の中で見せる、行動や表情、仕草、会話から、本人の意思を確認、把握し尊重するよう努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接、面会時に御家族から情報を得ています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェック(体温、血圧、脈拍)排泄チェック、食事、水分摂取、状態、行動記録などを比較することにより、心身状態を総合的に把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日朝礼時に入居者様の心身状態を把握し、変化維持はその都度カンファレンスを開催し、ケアの見直しをしております。	○	入居者様の小さな変化を、見逃さないよう日々の中で情報交換を行っています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月毎に更新、状況に合わせ、ケアプランの見直しをしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の朝礼で入居者様個々の介護記録、申し送りなどで職員間での情報の共有化を行い、それを実践に活かし、結果を介護計画に結びつけています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の病院、クリニックから、月2回専門医の先生に往診していただき、意見、アドバイスをうけています。系列病院への外来受診、入院等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々に来訪していただき、民謡、童謡、詩吟を行っています。又地域で行われるイベントにも参加したり、消防訓練への参加も積極的に行っております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に1度の訪問歯科をうけています。口腔機能の維持、低下予防を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	3ヶ月に1度、運営推進委員会を開催し、地域の方や区役所の方、地域包括支援センター職員にご協力いただいております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様と話し合い要望に合わせ、居間までの掛かりつけ医に受診される方、かかりつけ医より受け継ぎ定期的に受診される方と入居者様に適した医療を受けられるよう支援しております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様ご本人を傷つけない様な言葉かけや介護を心掛けております。記録時トラブルと記すときは、固有名詞を使用せず、情報の共有を図っております。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様がどの様な希望、要望があるか様子観察、話し合い、意向の確認を行い、入居者様の意向と合った支援を行うようにしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活スタイルやペースを尊重し、常に入居者様が主人公である、というホームの指針に沿った支援を行っております。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者様の身だしなみや整容は、ご自身の選択によって決定しています。同じ服装が続く場合は職員が整容を援助いたします。訪問理美容は2ヶ月に1回利用し、ご本人の要望がある場合は、馴染みの美容院へ行っていただいております。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に、食事の配膳、片付け、お皿洗いなどを行っております。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御家族確認の基に入居者様の希望のあった時、健康状態を確認した上でお酒等も量を定め飲んでいただいております。たばこは提供していません。	入居者様が食べたい料理を日々の会話から見つけ出し、外食やお誕生会などに提供するよう心掛けています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様個々の排泄パターンを把握し、本人の気持ちを考えながら、失敗した時などは、ご本人を傷つけることなく、そっと対応支援しております。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望に合わせ、入居者様の体調を確認しながら入浴していただいております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の疲れ具合を考えて、外出、レクリエーションを行い、安眠の出来ない利用者様については医師と相談し薬の処方をしていただいております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様一人一人の生活観を参考にして、入居者様個々に合った仕事や趣味活動の場を提供し、その人らしく生き生きとした生活を送れる様配慮しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出切る方がいないので、御家族よりお小遣いを預かり対処しております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の希望に合わせ、入居者様の体調を確認しながら、外出の支援を行っています。歩行困難な方は車椅子や車で外出し、負担のかからないように努めています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様個々の買い物や、外食等行きたい場所を事前に、会話などで見つけ出し、支援につなげています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、自由に電話していただいています。手紙に関しても、希望があれば自由に書いていただき、ポストまで職員が同行し、困難な方には職員が郵送対応しております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様が居心地良く過ごしていただくため、御家族や知人の方が気軽に来訪できる環境を作り支援に繋げていく工夫をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をするということは、その方の自由を奪う事ということを職員一人一人が理解し、安全面では十分に注意配りをする事で、拘束は行わないことを徹底しております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご本人の意思を尊重し、出入り口には鍵をかけず、出掛ける時は背後から見守り、時には声掛けをしております。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の様子は、日勤帯、夜勤帯で申し送りをしていきます。入居者様のプライベートスペースに入る時は、ドアのノック、又ドアについている小窓から中の様子を観察し入るようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に刃物類はご本人、御家族の承諾を得た上で事務所にて保管しています。又調理、工作のレクリエーションでは職員が見守り事故防止に努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬が起きない様に、新ケースに朝・昼・夜・眠前と分けし、日付、氏名を明確に書くことにより事故防止策につなげている。転倒防止には、入居者様個々に合わせた福祉用具を使用し安全な環境を作りを行い支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者急変マニュアル、救急車対応は、救急車対応マニュアルをリビングの目立つ場所に掲示しながら状態観察と手順により、職員全員で経験できるようにしています。	○	救急車対応時の状況を朝礼時に再点検し、その時に生じた問題点を次回の対応時に生かすようにしていきたいと思っています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	耐震強度を調べ、建物の中で一番安全な場所に情報の掲示をし避難場所の特定を行う。自治会の避難救出対象としていただいております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現状を把握し、現状から推測されるリスクを面会時、家族会の機会に説明をしています。	○	御家族との話し合い現状説明等の記録を残し、朝礼、カンファレンス等で職員への報告及び説明を行い、対策案の共有化を図っております。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック表、水分チェック表を記録して職員全員で、入居者様の体調変化に気づき、速やかに対応できるよう努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬の服薬シートを共有しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	介護記録とは別に、排便チェック表を一人一人記録し、便秘の予防と対応に取り組んでおります。食事メニューの見直し、果物の摂取、水分摂取量の確認等々。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員が口腔ケアの必要性を理解した上で、声掛け、半介助、全介助の方と一人一人に合わせたケアをしています。又口腔ケアの専門医の指導を仰いでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様全員の摂取量、水分量の記録をとり、状態に応じた、刻み食、お粥、トロミをつけた水分などを提供しています。献立は管理栄養士が作成しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	次亜塩素酸ナトリウム液を薄め、24時間加湿器を使用し感染予防に努めています。嘔吐があった場合は、スタッフが処理に係り、調理している方、スタッフは係らない事としております。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は食器乾燥機を使用し消毒しています。まな板や布巾は塩素系漂白剤を使用し毎日消毒しています。食材の買い置き期間の短縮3日以内など。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関口に、花を植え季節に応じた飾りをする事で、季節を感じていただけるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内は、季節感が出るように、季節の花を飾ったり、季節に合った飾りをつけをしています。又昔のCDや民謡を置き自由に音楽を楽しんでいただいております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳スペースがあり、誰でも自由に使用出来るようになっています。そこでTVを見たり、新聞を読んだり、読書を楽しんでいただいております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話し合い、利用者にとって居心地の良い空間作りをするため、使い易い馴染みのものを居室に置き、自宅と同じような気持ちで生活出来るよう支援しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房温度調整はフローア、居室内と温度差の内容、適温になっているか常に、気を配りながら管理を行います。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の状態に合わせて、トイレやお風呂場などに手摺を取り付けたり、車椅子、シルバーカー、杖、車輪の付いた椅子等を使用し自立した生活が送れる様工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドア横に表札を作成し、付け利用者個々が本人の居室だと、認識できるようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム庭にて食事会やお茶会、レクリエーションなどをおこなっている。又庭内菜園を利用し野菜の栽培、収穫なども行っています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			z
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく、明るく元気で快適な生活を送れる介護を目指しています。